

(02.12.08)

中国・北京、訪問印象記

高部英明

さて、中国。今回は北京の Institute of Physics, Chinese Academy of Science での日中ワークショップ(12/4-5)参加でした。少し感想を。

IOP(Institute of Physics : <http://www.iphy.ac.cn/>)は研究者 250 人の研究所で設立が 1928 年。驚いたことなどから書き始めましょう。

1 . 所長は 46 才。表面物理が専門。ここ数年の中国指導部世代交代には刮目される思いだ。若手は年長者に敬意を払い、年長者が若手に道を譲る。その構造が、ワークショップの間、主催者の Zie Zhang(44 才)と大御所の Xian Tu He さん [前、中国 ICF プロジェクト議長。現在は 47 才の Zhang (Zie とは別の Zhang) が議長] の互いを立て合う様子を見て、ほほえましく感じられた。かつて「60 才はガキ、70 才で大人、80 才で指導者」といわれた中国のイメージは完璧に過去の遺物になってしまっている。

2 . 今回の中国側ワークショップ代表者は Jie Zhang と云い、44 才で副所長。英国のラザフォード研究所のレーザー実験グループで Mike Key の後任としてリーダーをしていた (英国には 1989-1999 と 10 年間)。帰国してすぐ副所長で、きれいな Queens English を喋る。とてもアクティブな実験家。彼のグループは教官 4 人で大学院学生が 30 人。過去 3 年で米国の一流誌だけで Physical Review Letters 3 編, Physical Review E 9 編, Physics of Plasmas 10 編の論文を発表している (びっくり)。以前から彼のことは知っていたが、今回、個人的に知り合い、「孫子」、「劉備、関羽、張飛」など中国史について語り合い意気投合。

3 . 私は 5 年前に北京に 1 週間滞在したことがある。北京の街、新しい高層ビルが林立し、その経済成長を否応なく見せつけられた。泊まったホテルも、Radisson 系列の出来たばかりのホテル。アメリカにいる感じです。

4 . IOP は北京大学や精華大学のある大学地区 (北京市北西部) にある。驚いたのはホテルの横に 20 階建てのアパート群がある。同じ規格の窓がたくさんあり、各窓の横にエアコンの外機があるのでなんだろうと聞いたら、「すべて学生のアパート」。2 千人程度は収容できるか。この様なアパート群が他所にもあるそう。「日本の学生より恵まれている」と感心した。中国 12 億人から選りすぐられた秀才が、公園を中に囲んだアパート群で勉強に

励んでいる。「日本の学生、大丈夫？」と心配になってきた。

5. 研究所は広い場所にたくさんの建物がある。今回は出来たばかりのモダンな9階建てのビルの2階(29才の中国人建築家の設計。中央が吹き抜け。途中に何カ所か庭園があり、石畳を囲んでベンチが円状にならぶ。科学者がリラックスして議論したりする場所だ)の小会議室で日本側6人と中国側30人ほどでワークショップ。Jie Zhangのグループの博士課程、ポスドクなどの学生も参加。大学院は旧ソ連の方式をまねており、北京大学や精華大学をふくむ全国の大学から大学院生を取る。昨年は彼のグループには60人の応募者があり、ペーパー試験で10人に絞り、次に、一人40分の面接試験で4人に絞った。こんな学生が10年先には国際舞台で活躍する。どうする日本。

6. 1月にも日中で上海と成都に出かけた。その時と比べ、わずか1年で、研究の内容が「面白く高度」になっていた。すさまじい勢いで研究のレベルも向上している。以前は中国の発表といえば「社交辞令で聞いてあげよう」という気持ちが正直な気持ちだったが、今回は正直「面白かった」。行く前は三間先生に「くそ寒い北京に何でまた。仕方ない、北京料理でも食べに行きますか」と冗談半分に返事をしていたのだが、「清朝の宮廷料理(2日目にAcademicianのHeさんが招待してくれた)より、ワークショップの物理の方が美味しかった」。

7. 私は日本物理学会(会員2万人)の理事を9月から拝命し、主にAAPPS(Associate of Asia-Pacific Physical Societies)の担当理事をしている。AAPPSにはアジアと濠、NZを含む17の物理学会が加盟している(総会員約10万人)。これを活性化するのが当面の主任務。そこで、中国物理学会の本部で担当理事と会見したいと、Jie Zhangに説明し、「どこに本部があるんだ？」と聞いたら、エレベータのなかで「ほら見るよ、9階にChinese Physical Society(「中国物理学会」と漢字は同じ)と書いているだろう。お前はまさに求めるところに来ているのさ」と。実は、ワークショップはこのビルの2階で行っていた。

8. そこで、初日(12/4)に本部を訪れた。英語の流暢な美人の秘書が対応してくれ、早速担当理事の方と連絡を取ってくれた。翌日、ワークショップ終了後、他の参加者が実験室の見学に行く際、面談することになった。

9. 翌日、2時から8階の応接室で会談を行った。まず私の考えを説明し「21世紀の世界構造として米国、欧州連合に対置できる物理学会勢力としてアジア物理連合を第3局に育て上げたい。そのためには中国の積極的な関与が必要である」旨の説明をした。また、その本部を日本に置きたいという個人的な意見も説明した。すると、中国物理学会の担当理事Nieさんから「私も貴方の考えに大賛成だ。アメリカ物理学会の現状を見る。講演の4割が米国で3割が欧州カナダなど、残り3割がアジアなどからだ。なぜ、米国が世界の

中心でなければいけないのだ。アジアが協力して世界に発信できる物理学会連盟をつくっていかうではないか」と。「そのためには、日本、中国、韓国、香港などがコアを形成してアジア物理連盟を引っ張っていく必要がある」と。

10 .そこで私は「ナイーブな質問だが、この連盟の牽引役には台湾の参加が重要だ。この点についてはどうなのだ」と質問した。すると「Taiwan は中国の一部であり、この固有名詞を使うことは出来ない。しかし、Physical Society in Taipei と Chinese Physical Society は交流協定を締結しており、Taipei である限り人物交流を含め何ら障害はない」という答え。さすが、中国4千年の知恵である。

11 .帰りは成田に降り(第2ターミナルで滑走路に入ったと思ったら途中から田畑に代わりそのすぐ上を滑空し、着陸。びっくりです)翌日11時から昼食をはさみながらの理事会に参加した。報告事項の9番目に急ぎよ、AAPPSの報告をさせていただいた。会談の様子等報告の後、「アジア連盟をのんびりやっていたのでは10年先には中国は日本なんか相手にしてくれなくなりますよ。至急、アジア物理学会連盟をコアの国で活性化し、アジア物理学会などの会合開催など検討開始すべきです。また、日本に本部を置く件も、真剣に検討すべきです」と締めくくったところ、皆さん一様に納得しておられた様子。

12 .「蛇足ですが」と付け加えて、ホテルで手に入れた英字雑誌「Beijing REVIEW」(「News Week」の様な週刊)のNov. 28 issueを示しながら「ここに、来年4月から発足する新中国共産党のHu Jintao 新共産党書記長(国家主席)を含む共産党執行部9名の詳細な経歴が記載されています。9人全員が大学は理系出身なのです。何と、Huを含み4人が精華大学。理系出身のTop-9が12億の民を引っ張るわけですから、当然、科学・技術への投資はますます積極的になると考えられます。某大学の法学部出身の官僚が舵取りをする国の基礎科学の衰退が心配でなりません」と結びました。その後、皆さん沈黙でした。